

認知症学術フォーラム提案（令和元年10月16日）

1 フォーラムのテーマ 認知症---予防と共生に向けて学術の取り組み

2 企画趣旨

少子高齢化の課題は、日本社会が直面する最大の課題であり、学術を含めた社会の基盤に関わる問題である。この少子高齢化は様々な問題を惹起するが、最大の問題は、認知障害を持つ人口比率の急激な増加である。

認知症、あるいは、軽度認知障害（MCI, Mild Cognitive Impairment）の増加は、社会や学術への好影響は想定しにくい。一方、少子高齢化の先頭に立つ日本の取り組みは、世界の課題解決にとって極めて大きな意味を持つ。また、認知症との共生と予防への取り組みは、多様な価値観と生き方の共生を目指す次世代の日本社会にとって、重要な方向性を示すことが期待できる。

これは行政だけの課題ではなく、学術組織が総力をあげて立ち向かうべき重大な課題である。この点は、日本の展望 2020 においても、強調されるべき点である。「認知症の治療開発」は言うまでもなく重要であるが、時間のかかる非常に困難な課題であり、近未来的には、認知症との「共生」と「予防」に注力すべきである。

認知症、MCI の課題に対する学術の取り組みは以下の4つの視点から考えられる。

- 1) MCI に対する医学・健康科学からの予防的アプローチの視点
- 2) 認知症との共生を支える技術支援・開発（環境・都市工学なども含めて）の視点
- 3) 認知症との共生を実現するための人文科学の視点（教育、人権、法制度など）
- 4) 認知症の予防と共生の持続的発展のための財務基盤、医療経済的視点

これら4つの視点は、明らかに、日本学術会議の全ての領域が横断的関わるべきものである。しかも、議論に十分な時間をかけられない喫緊の課題であり、日本の学術の総力を挙げた即時性の高い対応が求められている。

今回、「認知症—予防と共生に向けた学術の取り組み」をテーマとして、学術フォーラムを開催し、上記の観点から日本学術会議の関係者の取り組みを紹介し、国民と情報共有する場を提供したい。

3 開催時期 令和2年 1月14日（金曜日）

4 コーディネーター 宝金清博（第二部会員）

（次第）概要（仮案）

13:00～13:10 10分

【開会挨拶】日本学術会議（会長または副会長に依頼）

13:10～13:20

【キーノート】10分

宝金清博（第二部会員、コーディネーター）認知症と生きる社会と「学術」

13:20～14:20

【講演第一部】各20分 計60分

認知症と社会

座長 磯部光章（第二部会員）、山脇成人（第二部会員）

* 認知症と社会制度・佐藤岩夫（第一部会員）

* 認知症と生きる社会・白澤政和（連携会員）

* ユマニチュードと認知症・本田美奈子（東京医療センター）

14:20～14:30

【休憩】

14:30-15:30

【講演第二部】 各20分 計60分

認知症の予防と共生を支える科学技術

【座長 丹下健（第二部幹事）、平井みどり（第二部副部長）

*Society 5.0が支える認知症社会・萩田紀博（第三部会員）

*認知症との共生とビジネス創成・日立製作所

*MCI と予防の最前線・講演者未定（吉川左紀子、京都大学こころの未来研究センター？）

15:30-16:30

【パネルディスカッション】 60分

座長 石川冬木（第二部部長）、小松浩子（第二部会員）

*厚労省オレンジプラン担当者（岡野智晃 厚労省認知症施策推進室長？）

*認知症患者家族 ・藤田和子氏（日本認知症本人WG代表）or 鈴木森夫氏（認知症の人と家族の会代表理事）

*日本学術会議から3名（第一部、二部、三部）

16:30-16:40

【閉会挨拶】10分

日本学術会議（会長または副会長に依頼）